



Nomura Research Institute Group

株式会社野村総合研究所：ESG 説明会 質疑応答（概要）

（2021年2月25日（木） 野村総合研究所 東京本社/オンラインにて開催）

質問者 1 人目（アナリスト）

Q1：DX3.0に関する説明があったが、具体的にDX3.0に含まれる業務内容や事例があれば教えて欲しい。

A1：DX3.0には様々な切り口があるが、まずは「カーボン・ニュートラル（※1）」、「サーキュラー・エコノミー（※2）」、「フードバリューチェーン（※3）」の3点における取り組みを進めたい。

社会の構造変革は、NRIのみではとても実現出来ないもので、例えばカーボン・ニュートラルであれば、以前から付き合いのある電力会社との間で具体的にどのように協業出来るか話し合いたい。また、サーキュラー・エコノミーについては、長年仕事を共にしている流通小売り企業と一緒に、具体的な事業をこれから検討していく。フードバリューチェーンに関しては、NRIがシステムの運用を担っている農業関係の団体の方と一緒に、どのような事が出来るかという議論を始めている。

このようにNRIが単独でDX3.0関連の事業を立ち上げるというよりは、顧客企業と共にこれらのテーマに取り組み、事業を通じたアプローチをしていきたい。

（※1）二酸化炭素（CO2）の排出量と吸収量とがプラスマイナスゼロの状態になること。

（※2）有限である資源を効率的に利用し、再生産を行い、持続可能な形で循環させながら利用していくこと。

（※3）食品の生産から製造・加工、流通、消費に至る各段階の付加価値を高めながら、つなぎあわせることによって構築される付加価値の連鎖。

質問者 2 人目（アナリスト）

Q2：カーボン・ニュートラルな社会の構築など、社会課題への関心が日本中で高まっているが、実際様々な顧客と接点があるNRIでは、日本企業の関心はどのような所にあると考えているのか。また社会課題の解決に向けたNRIの事業機会は、どのような所にあると考えているのか。

A2-1：様々な企業と対話をする中で、社会課題への関心はどの企業も総じてとても高いと感じている。特にカーボン・ニュートラルに関しては、昨年の菅政権発足以来、取り組みが加速している。

しかし、メタネーション（※4）など個別の技術開発については具体的に話が出ているが、それを活用して、テクノロジーによって社会にどのような効果を生み出すのかという、総体としての分析や研究はまだ不足している。現在は、各企業が得意としている分野、かつ出来る範囲でカーボン・ニュートラルへの貢献に取り組んでいる、という認識でいる。しかし、全体としての枠組みや、総体としてどのような効果が社会に生み出されるのかという点に関して、2021年中にもコンサルティング部門を中心として、NRIから積極的に情報発信をしていきたい。

A2-2：カーボン・ニュートラルに関しては、一連の報道にあるように、各企業へのカーボン・ニュートラルに関する開示ルールが導入される事を皮切りに、状況が変わっていくと考えている。

一方で世界最大の資産運用会社、ブラックロック社の会長が今年1月の書簡で「温室効果ガス排出量 Scope1、Scope2、Scope3（※5）に関する開示をしない企業には、投資はしない」と述べたように、開示強化に向けた流れはますます進んでいく。

例えば、NRI の共同利用型サービスは、1,000 億円を超える事業規模があり、このサービスの提供を通して顧客企業の二酸化炭素排出量の削減に貢献している。

しかし、NRI の「その他間接排出量（Scope3）」に含まれる、顧客企業の二酸化炭素排出量は、一般的に各利用企業における「取引額 100 万円につき二酸化炭素排出量 1t（トン）」という算定式で計算する必要がある。仮に「データセンター利用による二酸化炭素排出量をゼロにする」という法制化がなされた場合、この算定式では各社との取引規模に比例し、Scope 3 に計上される二酸化炭素排出量も多くなるため、到底対応出来ない。

そのため、100 万円 = 1t という係数計算ではなく、実態に合った二酸化炭素排出量の算定方法を導入し、さらに共同利用型サービスが稼働するデータセンターの使用電力を再生可能エネルギー 100%にすることで、顧客企業のデータセンター利用による二酸化炭素排出量をゼロにしていきたい。

次回の ESG 説明会では、こうした脱炭素化の取り組みに関して成果を発表したい。

- (※4) 水素と二酸化炭素(CO2)から、天然ガスの主成分であるメタンを合成する技術。メタン合成時に二酸化炭素を原料にするため、日本政府は同技術を「カーボンサイクル（CO2 の再利用）」の有望な技術の一つとして位置付けている。
- (※5) GHG プロトコルが策定する、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量の算定・報告の世界的な基準・ガイドライン。Scope 1 から Scope 3 の 3 つで構成されており、Scope1 は「企業による直接排出量」、Scope2 は「エネルギー利用に伴う間接排出量」、Scope3 は、「その他間接排出量」を指す。

以上